

1 はじめに

近年、我が国では、居住環境における緑の減少や降雨量の減少に伴い、生活用水が不足するなどの問題に加え、国際的には熱帯林の減少や二酸化炭素の大量放出などによる地球の温暖化問題がクローズアップされています。

このような社会的問題を背景として、都市住民等においては森林とのふれあい、森林の造成及び自然環境の保全等への参画意識が年々高まっています。

一方国有林が所在し、これを管理している営林署等においては、適切な森林の造成等を通じ、国土の保全、水資源のかん養、空気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出すなどの公益的機能の高度発揮が期待されるとともに、都市住民に対しては、これら森林の果たしている役割や林業の重要性について理解の醸成に努めることが課題となっています。

このため当支局では、富山・岐阜・愛知3県の国有林内において、森林資源を育成する活動や森林パトロール活動等の希望者を「名古屋営林支局シティ・フォレスター」として募集し、応募された方を登録するとともに、これを受け入れる支局及び営林署側のネットワーク化により、市民参加の森づくりや自然環境保全活動等の積極的かつ効率的な推進を図ることを目的として、平成9年度当支局のオリジナルの新規事業として取り組んだものです。

2 取組み内容

シティ・フォレスター（以下、単に「隊員」と表現します）隊員の加入状況については、募集に当たって地元の中日新聞・朝日新聞等の一般紙及び業界紙はもとより、中京TV・名古屋TV局などに情報を提供し広く募集したところ、1,330名の応募がありました。個人での応募が230名、団体で応募された王子製紙春日井工場の社員1,100名です。

(1)個人隊員の加入状況

①隊員の性別内訳は、男性2人に対し女性1名の割合となっています。（図-1）

②男性隊員の年齢階別内訳は、40才以上60才未満が最も多く、20才以上60才未満の働き盛りの隊員が72%を占めています。（図-2）

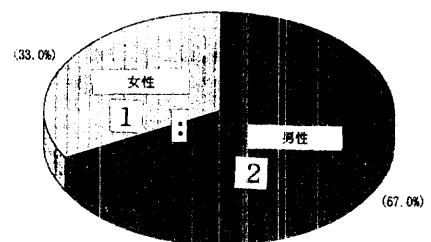
③女性隊員についても、20才以上60才未満の隊員が83%を占めています。（図-3）

④居住地別では、名古屋市民が41%と多数を占め、これを含めた愛知県の隊員は約80%を占めています。（図-4）

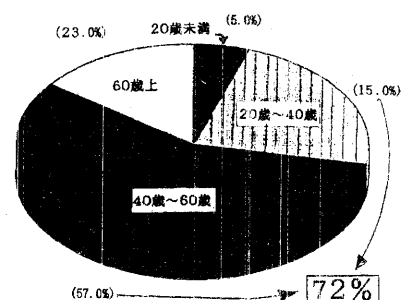
(2)事業の実施状況

①愛知営林署では、5月17日（土）段戸国有林において「15年生ヒノキ除伐Ⅱ類と森林散策」を実施し42名が参加しました。これは地元で結成されている「穂の国森づくりの会」と共同で実施し、参加費は500円でした。

(図-1) 隊員の性別内訳



(図-2) 男性隊員の年齢階別内訳



②指導普及課と尾張森林センターでは、5月19日（月）瀬戸国有林において「36年生ヒノキ間伐及び枝打ち作業と森林の水源かん養機能に関する森林教室」を実施し25名が参加しました。これは名古屋市名東区生涯学習センターと共同で実施し、参加費は800円でした。

なお、このイベント状況については、中京TVと名古屋TVが取材を行い、ニュース番組で放映されました。

③小坂営林署では、8月19日（火）20日（水）の一泊二日の日程により、御岳自然休養林で「探勝路の看板整備と自然観察会」を実施し、23名が参加しました。隊員には参加費4,000円と約13,000円の宿泊費を負担してもらいました。

このイベントは、「森の番人、都会育ち23人のボランティア」の見出しで、朝日新聞等で大々的に報道されました。

④富山営林署では、9月29日（月）うっすらと雪化粧し、紅葉とのコントラストが眩い立山の室堂周辺において、「空き缶拾いなどの清掃活動」を実施し、25名が参加しました。隊員には4,500円の参加費と宿泊費を負担してもらいました。

⑤荏川営林署では、10月6日（月）7日（火）の一泊二日の日程で鮎立中山国有林と大白川国有林において、「枝打ち作業と白山白川自然休養林の環境整備」を実施し、15名が参加しました。隊員には7,100円の参加費と12,600円の宿泊代を負担してもらいました。

⑥小坂営林署では、2回目として10月16日（木）17日（金）の一泊二日の日程で、川上国有林と老谷ささやき自然の森において、「30年生スギの間伐及び自然の森内の樹名板の取り付け」を実施し、27名が参加しました。隊員には6,000円の参加費と約7,000円の宿泊代を負担してもらいました。

以上のとおり、今年度は6回の事業を実施し、延べ160名の隊員が参加しました。

(3) 隊員へのアンケート調査の結果

6回の事業に参加された隊員を対象として、115名の隊員にアンケート調査を実施したところ、75名の隊員から回答を得ました。その内容は下記のとおりです。

① 事業に対する評価

○森林の果たしている役割や自然保護及び森林整備の必要性について理解が深まった。

○国有林野事業は、厳しい予算事情及び要員のもとで、森林づくりなどの重要な業務に取り組まれていることを認識した。

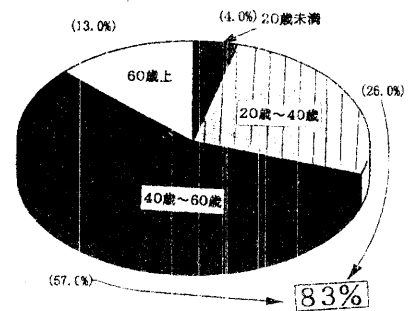
○山林労働の厳しさを体験するとともに、心地よい汗を流すことができ、心身のリフレッシュができた。

② 今後、希望する事業内容

○「森林づくり」46%、「自然観察等」29%、「森林の環境整備等」24%、となっており、約半数の隊員は「森林づくり」を望んでいます。（図-5）

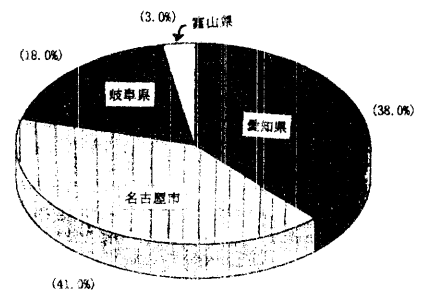
女性隊員の年齢階別内訳

(図-3)



隊員の居住地別内訳

(図-4)



○「森林づくり」の内訳は、植栽が一番多く、間伐、枝打ち、下刈、除伐、地拵の順となっています。(図-6)

③参加費の上限額

○3,000円以上5,000円未満が74%, 3,000円未満を含めると約80%の隊員が5,000円未満を希望しています。(図-7)

④希望する時期及び曜日

○春から秋の土曜日若しくは日曜日を希望した隊員が多数を占めていますが、隊員の仕事の関係上ウィークデーを希望する隊員もいました。

⑤その他

○事業を実施した営林署からは、事業の目的は理解できるが厳しい要員事情のもとで、隊員の受け入れや実施体制面での不備等に関する問題提起がありました。

3 まとめ

以上の意見及び要請を踏まえ、その対策について検討を重ねていた最中に、林政審議会の最終答申が出ました。この答申において、国有林については名実ともに「国民の森林」として管理経営するとともに、「森林ボランティアによる森林整備の推進」について提言されています。

このようなことから、この事業については、今後益々重要な業務として位置づけられ、積極的な取り組みが必要となります。このため、この事業の今後の実施方法のあり方などについて検討を深めた結果、下記の結論を得ました。

(1)参加費の軽減化の方法

- ①共催若しくは協賛団体等を掘り起こし、経費の分担化を図る。
- ②車両のレンタル料及び有料道路の通行料金等の値引きについて、相手先と折衝する。
- ③参加人員に見合った無駄のない車両をレンタルする。
- ④宿泊料の割引について、相手先と折衝する。

(2)実施時期及び曜日の設定

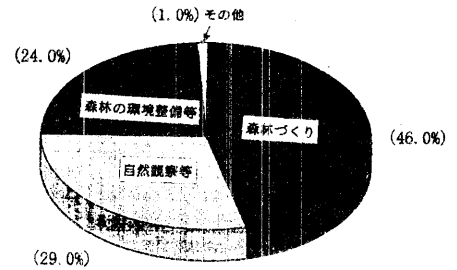
- ①今年度は、隊員募集の関係等から秋に事業が集中したが、今後は春から実施するなど時期の分散を図る。
- ②実施の曜日については、土曜・日曜日の休日コースと平日コースの2コースとする。

(3)本格的な森林作業の実施

- ①植栽、下刈、除伐、間伐などの作業種を増やすなど選択メニューの拡大化を図る。
- ②従来実施してきた営林署主催の植樹祭については、適宜見直しするなど、この事業での実施について取り組む。
- ③無駄のない集合及び解散時刻を設定するなど、実労働時間の確保を図る。

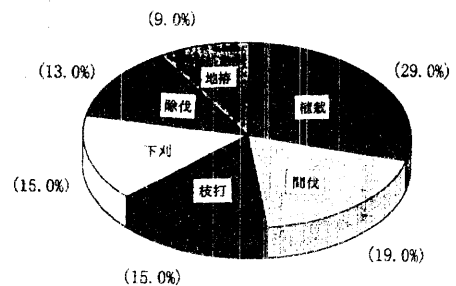
参加希望の作業内容等

(図-5)



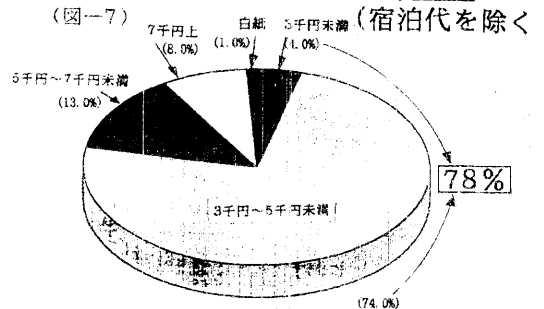
森林づくりの希望作業種

(図-6)



イベント参加費の上限額

(図-7)



参加費使用内訳

- 1. レンタカー代
- 2. 傷害保険代
- 等

(4) 営林署における実施体制の充実化の方策

- ① 管理者をチーフとしたプロジェクトチームを結成するなど、従来の植樹祭なみに、「署の一大行事」として全署をあげて本格的な取り組みを行う。
- ② 現場作業のベテランである基幹作業職員の活用を図る。
- ③ 隣接署との合同実施する。
- ④ 共催若しくは協賛団体を掘り起こし、役割の分担化を図る。
- ⑤ 必要に応じ、支局職員の派遣も考える。

4 おわりに

この事業はスタートして間もないことに加え、初めて山林労働を体験される隊員が大半を占めていることから、手取り足取りの行き届いた指導のもとで、各種作業を実施している現状にあります。

しかし、今後は安全教育や技能教育の修了者で一定のレベルに達した隊員については、本人の自主性に任せた作業の実践や、国有林がフィールド及び作業用具を提供するなかで、隊員同士の自主的な活動に任せることを最終目標として取り組んで参りたいと考えています。